

東京都自転車安全利用推進計画における目標の達成状況（令和3年度から令和7年度まで）

及び都内の自転車事故の特徴について

資料4－1

【現行】東京都自転車安全利用推進計画

○目標（令和7年中）

自転車乗用中死者数 18人以下
 自転車事故発生件数 7,000件以下
 駅前放置自転車台数 15,000台以下

○目標の達成状況

<自転車乗用中死者数>

・自転車乗用中死者数については、令和6年は減少したものの、目標数値は達成しなかった。

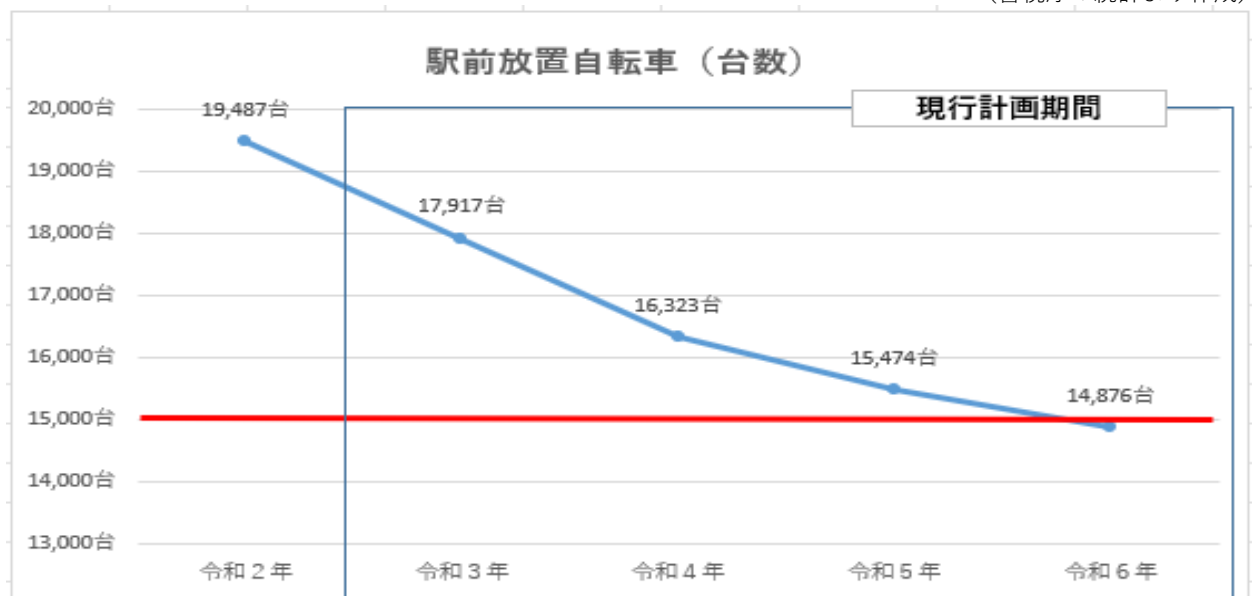
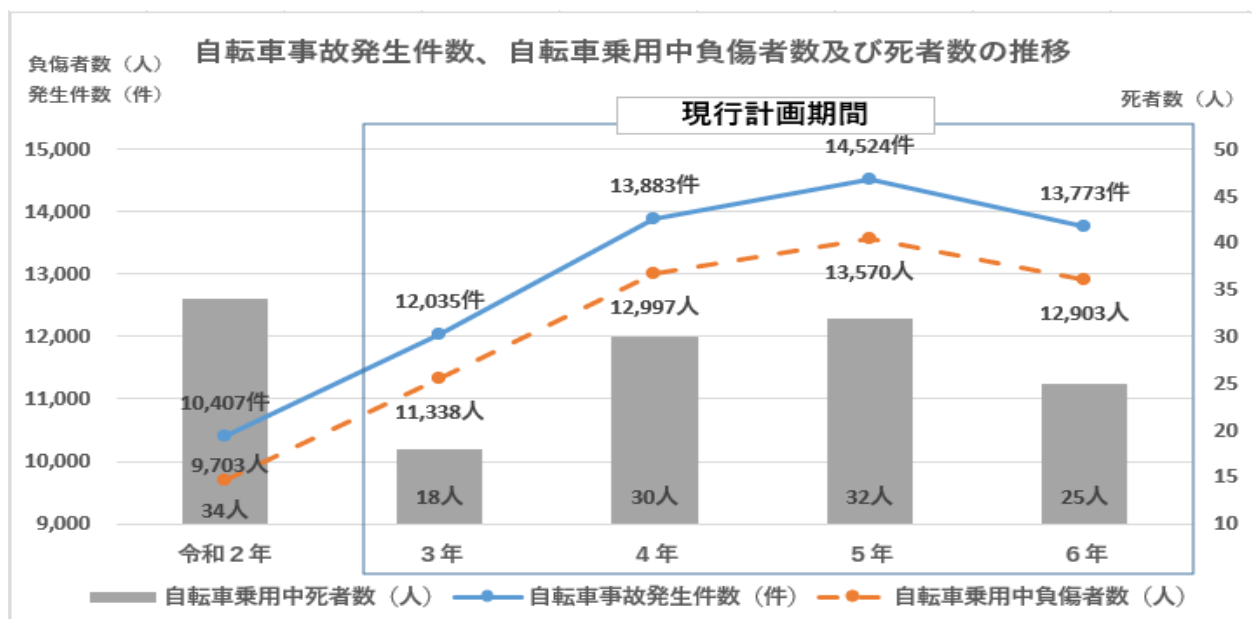
<自転車事故発生件数>

・自転車事故の発生件数は、現行計画期間中増加傾向であったが、令和6年は減少した。しかし、目標数値は達成しなかった。

※自転車事故件数は、自転車の関与事故件数であり、自転車相互事故は1件として計上

<駅前放置自転車台数>

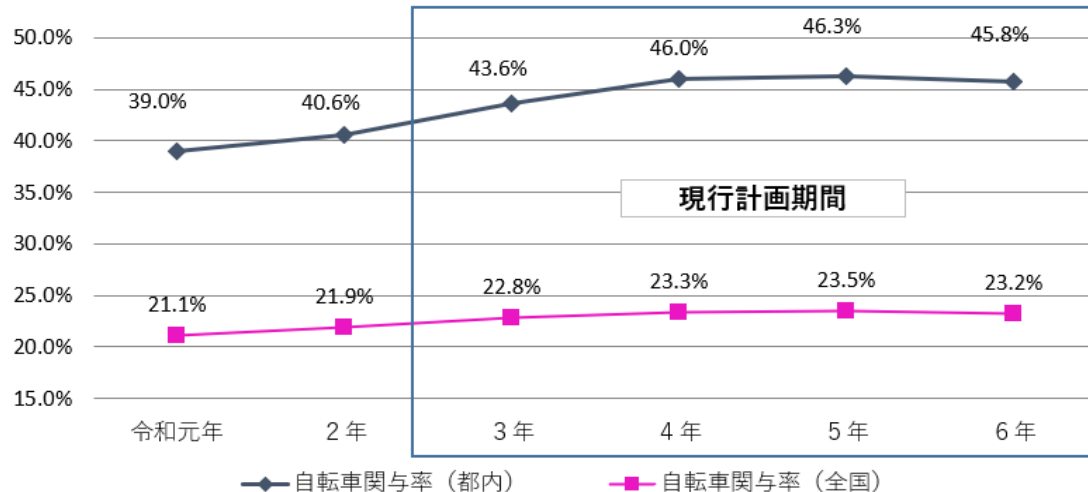
・放置自転車台数は、現行計画期間中、徐々に撤去されたことで、令和6年度末には14,876台になり、目標数値を達成した。



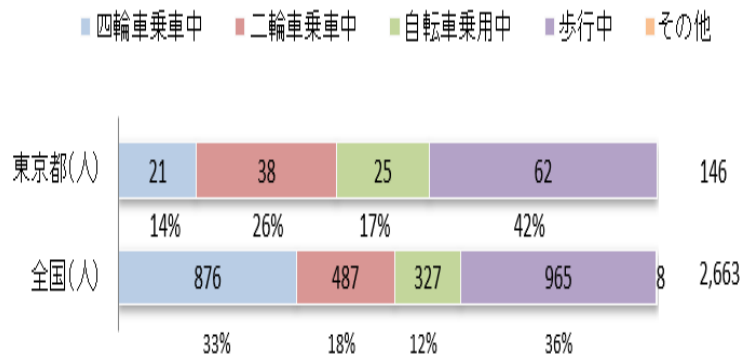
○自転車事故の特徴（自転車関与率）

- ・都内では、事故に占める自転車関与率が4割を超え全国平均と比較して高い（全国：約2割）。
- ・都内では、二輪車、自転車乗用中、歩行中の死者の割合が全国と比較して高い。
- ・自転車乗用中死者のうち、頭部損傷が主因の死者が7割弱

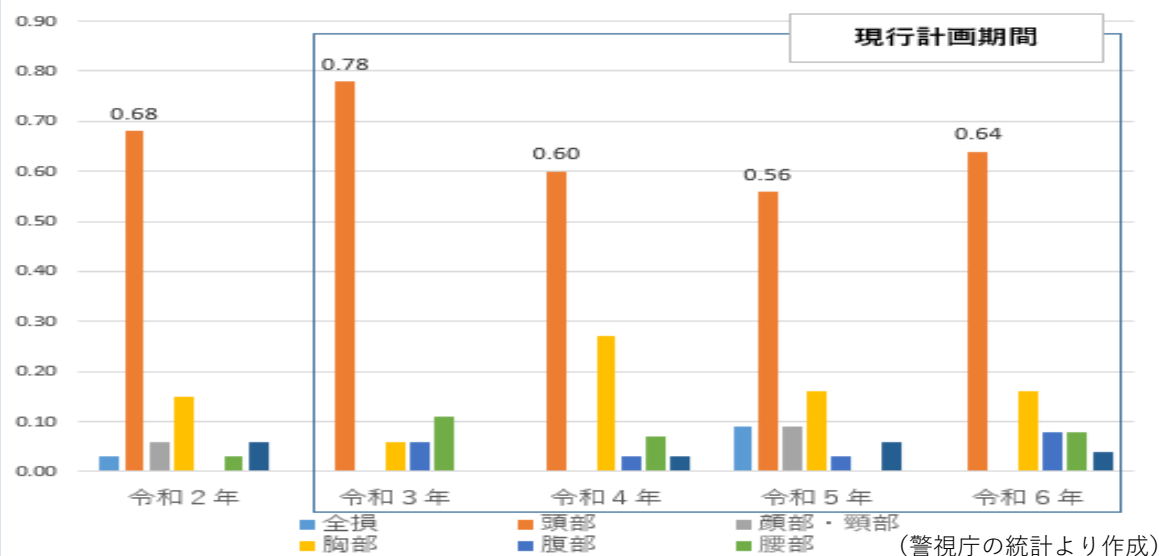
自転車関与率の推移



状態別死者数（都・国 令和6年）

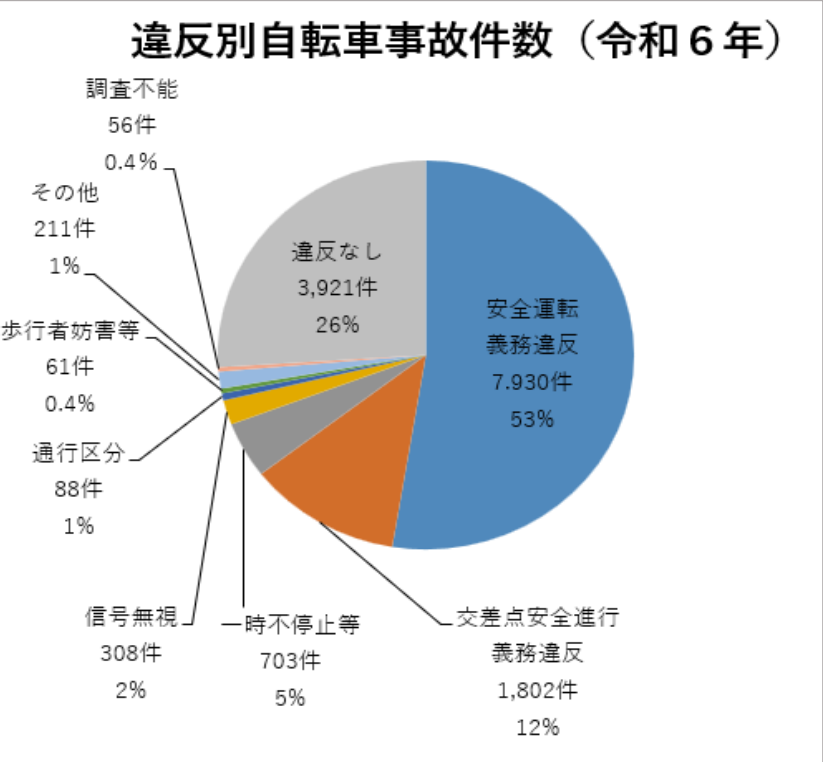
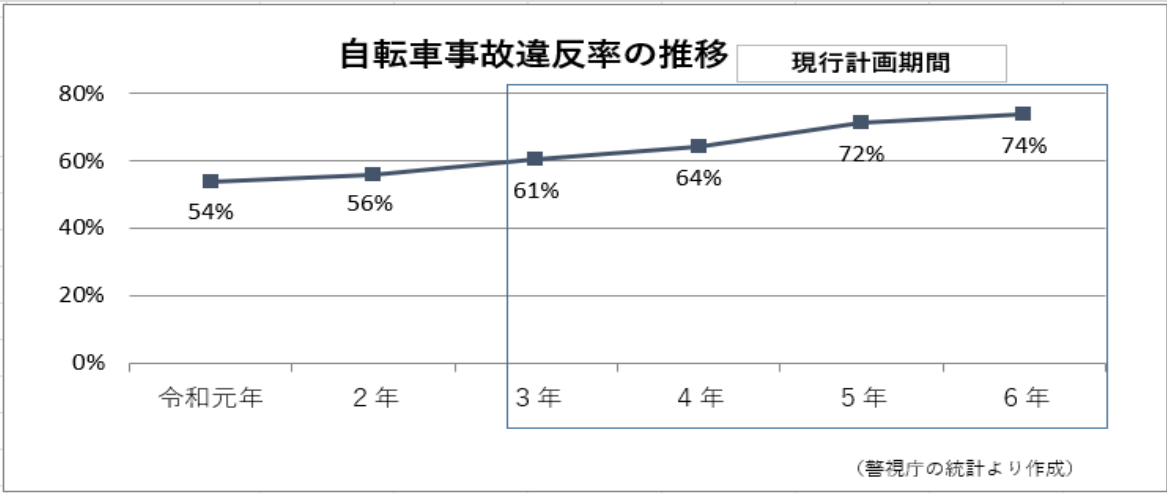


損傷主部位別死者の割合（自転車）

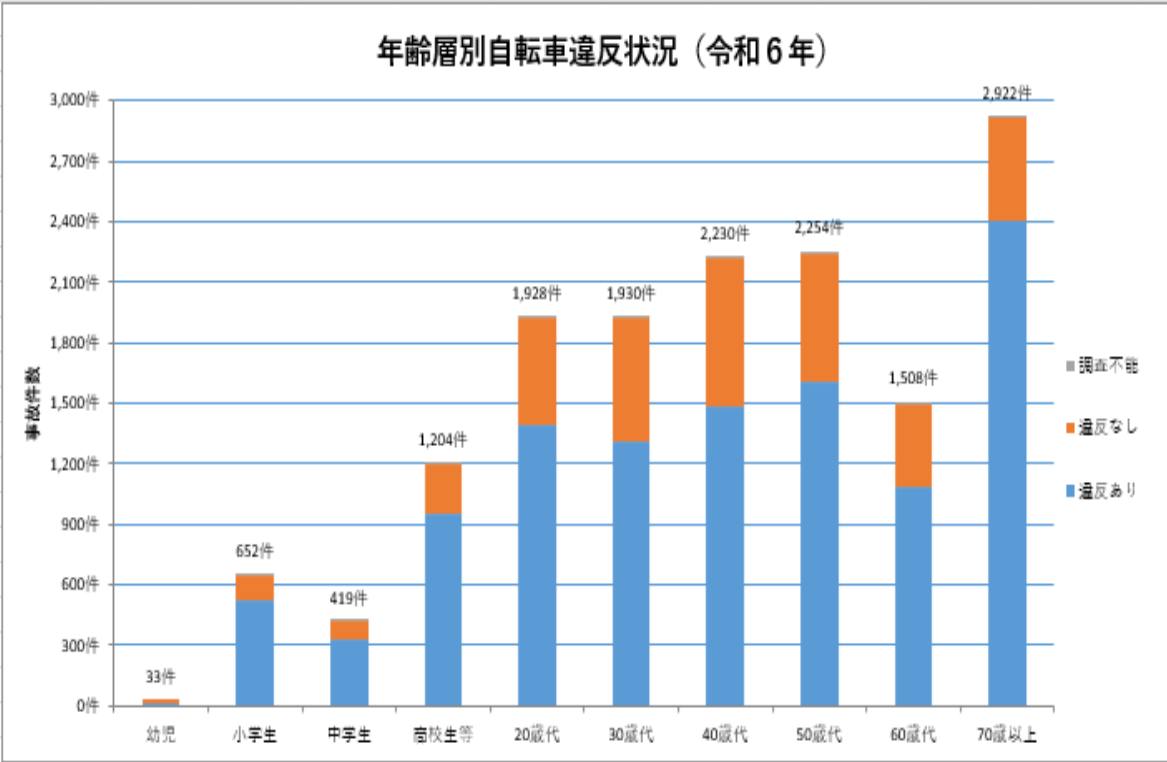


○自転車事故の特徴（違反の状況）

- ・自転車関連事故のうち法令違反のある割合は、年々上昇しており、令和5年以降は7割超
- ・中でも、ハンドル操作不適や安全不確認などの「安全運転義務違反」の割合が半数以上
- ・年齢層別自転車違反状況は、どの年齢層でも違反が多い。特に小学生、中学生、高校生等及び高齢者については、違反の割合が高い。



(警視庁の統計より作成)



(警視庁の統計より作成)

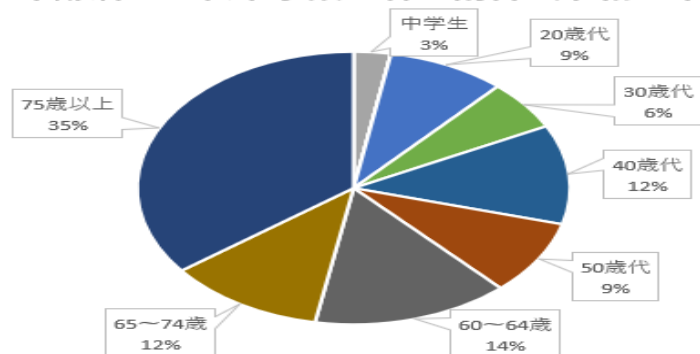
○自転車事故の特徴（自転車事故件数等）

・自転車事故件数は、40歳代～50歳代及び70歳以上が多いが、人口千人当たりの年齢層別自転車事故件数では、高校生等（中卒～19歳を含む）の割合が突出して高くなっている。

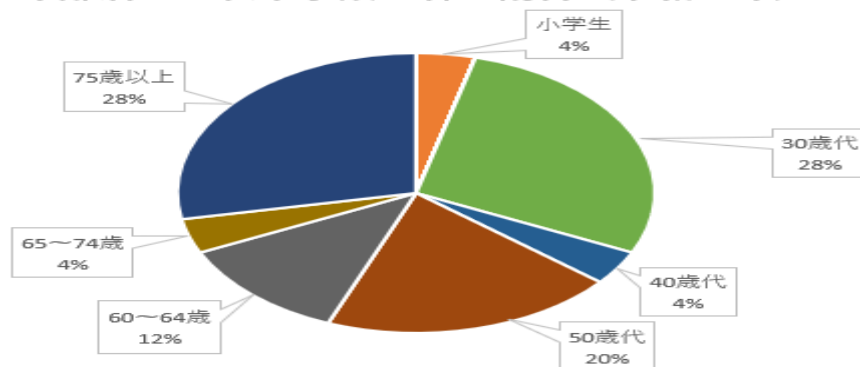
・自転車乗用中死者数は、65歳以上の割合が依然として高い。

・令和6年の自転車の事故を、事故類型別でみると、「車両相互」の「出会い頭」の事故が最も多く、発生件数が4,912件、死者数が12人となっている。（警視庁の統計より作成）

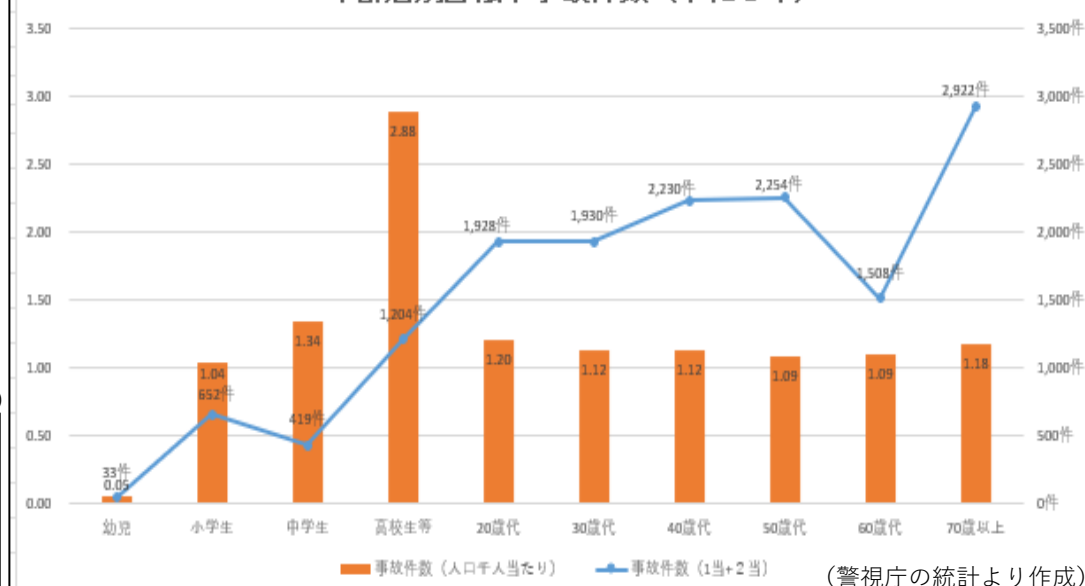
年齢層別自転車事故死者の割合（令和2年）



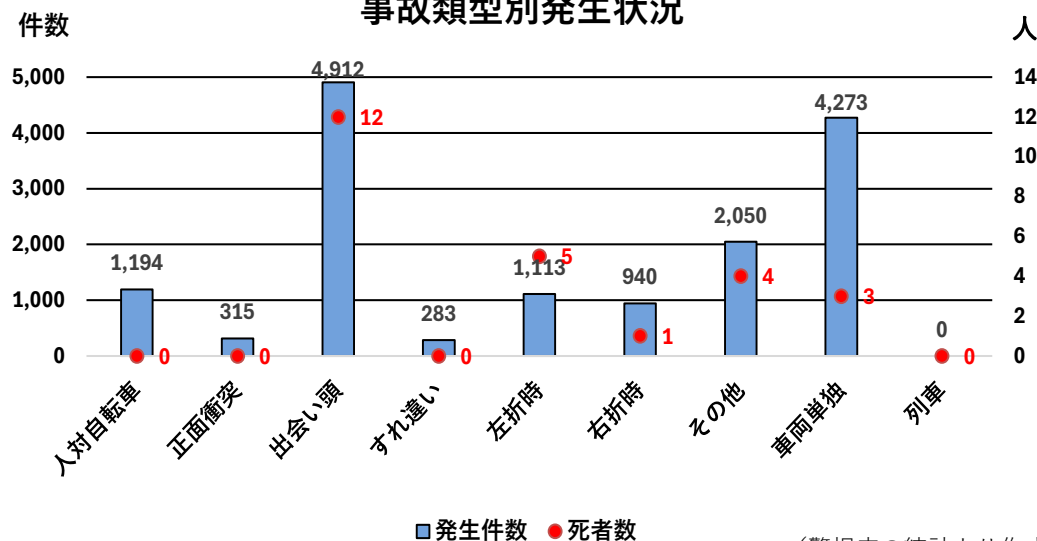
年齢層別自転車事故死者の割合（令和6年）



年齢層別自転車事故件数（令和6年）



事故類型別発生状況



（警視庁の統計より作成）